

23年度活動報告・活動決算

事務局（中北事務局長）

■例会学習会記録その他

開催日	学習会テーマ	学習会講師	その他
H23.7.2	ふくてっくロジックモデル	木村 充枝氏 エフ・エー はなまる介護 サービス責任者	・東日本大震災/宮城県へ 「杖と靴（リハビリシューズ）」を 送る活動に参加
H23.8.6	第10回定期総会開催		・総会后、理事会開催 ・旧ブログ停止
H23.9.3	（台風により休会）		
H23.10.1	福祉サービス事業の 最新動向	中北 清氏 ふくてっく会員	
H23.11.5	近代ボランティアと NPOの歴史	牧口 明氏	・東北 vs 関西ポジティブ生活文化 交流祭に参加（11/23） ・まいど！おばちゃん発表
H23.12.3	障がい者虐待の現状と課題	佐藤 宣三郎氏 やすらぎの丘・たかとり ワークス統括責任者	・臨時総会開催 ・会報81号を発行
H24.1.7	懇談会にて 参加会員より一言		・定款変更申請手続き完了 ・HPリニューアルしました
H24.2.4	言語聴覚士とは ～その仕事と対象者について～	木原 美喜雄氏 言語聴覚士	
H24.3.3	平等院鳳凰堂の CGによる復元 ～極楽浄土の美再現～	樋口 文彦氏 ふくてっく会員	・例会后、理事会開催
H24.4.7	“聴く力と補聴器” その役割と歴史について	下門 一彦氏 ワイデクス(株)大阪所長	・3/11～12レクリエーション実施
H24.5.12	「知的障がい者入所施設・ 通所施設」第三者調査報告	中北 清氏 ふくてっく・こむねっと部	・定款変更登記手続き完了
H24.6.2	高次脳機能障がいを生きる	堀ノ上 薫氏 トライサングル	・会報82号を発行

■総会

開催日時	場所	議事
H23.8.6 13:35～15:00	大阪市立社会福祉 センター 304号室	・こむねっと事業部会再開報告 ・H22年度活動報告・同決算 承認 ・H23年度活動計画・同予算 承認 ・H23年度理事の改選 承認
臨時総会 H23.12.3 13:40～13:58	大阪市社会福祉研修・情報 センター	・定款変更申請の件 承認 ・H23年度活動報告・同決算 承認 ・H24年度活動計画・同予算 承認

■理事会・運営会議・ミーティング

開催内容、日時	場所	議事
理事会 H23.7.23 13:00～15:30	関西照明器具工業 協同組合 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・総会準備：22年度活動報告、23年度計画を確認 ・23年度理事の改選に対する候補者 ・認定NPO法人について 継続審議 ・会費値上げの検討 継続審議
理事会 H23.8.6 16:20～17:20	大阪市立社会福祉 センター 304号室	<ul style="list-style-type: none"> ・新理事の担当役割について ・ふくてっく短期・中期計画について ・活動部会の位置づけについて ・認定NPO法人について ・年会費の見直しについて
運営会議 H23.8.20 16:00～19:00	ATC ふくてっく 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・執行部体制について ・定例会運営の役割分担について ・ふくてっくロジックモデル ・定款、規約等の改訂について
運営会議 H23.9.24 13:30～17:30	ATC ふくてっく 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の学習会企画について ・ふくてっくロジックモデル協議 ・今後の予定、その他
理事会 H23.11.5 17:05～17:25	大阪市立社会福祉 センター 305号室	<ul style="list-style-type: none"> ・定款変更の認証手続きについて ・臨時総会の開催について
運営会議 H23.11.5 17:35～18:30	大阪市立社会福祉 センター 305号室	<ul style="list-style-type: none"> ・11/23 イベント企画について
運営会議 H24.2.4	大阪市社会福祉情 報・研修センター	<ul style="list-style-type: none"> ・11/23 イベント振り返り ・3/11 イベント不参加を決定
理事会 H24.3.3 17:05～19:15	大阪市立社会福祉 センター 304号室	<ul style="list-style-type: none"> ・H23年度上半期活動報告・同決算 ・H23年度下半期活動計画・同予算 ・H23年度上半期理事活動報告
運営会議 H24.6.23 14:00～17:00	関西照明器具工業 協同組合 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・H23年度活動・同決算報告の吟味 ・H24年度活動・同予算計画の検討 ・H23年度決算理事会決議事項検討

※ロジック・モデルにおいて提起された執行部・事務局課題の達成状況

- ①活動内容の見直し等に伴う定款変更手続きは完了
- ②固定費の見直しなど、会運営の根本課題解決は未着手
- ③認定NPO法人格の取得に関しては、全会的なコンセンサスと気運の高揚は見られない。
- ④例会運営に関する役割分担・体制は整っている。

※会員動静

元会員の大室尊昭氏、高木敏裕氏をご逝去されました。

謹んで、ご冥福をお祈りします。

企画（清水理事）

1) 学習会/9回実施（8月は総会、9月は台風の為施設使用できず、1月会員懇談会のため実施なし）

- A) 市民活動： 7月「ふくてつくロジックモデル」
11月「近代ボランティアとNPOの歴史」
- B) 人権擁護： 8月「福祉サービス事業の最新動向」
12月「障がい者虐待の現状と課題」
6月「高次脳機能障がいを生きる」
- C) コミュニケーション： 2月「言語聴覚士とは、～その仕事と対象者について～」
4月「聴く力と補聴器、その役割と歴史について」
- D) 部会報告： 5月「こむねつと事業部会/第三者調査報告」
- E) 会員企画： 3月「樋口会員/平等院鳳凰堂のCGによる復元」

2) 東日本大震災への支援 福祉用具「杖とリハビリシューズ」を集める。

H23年6月の呼びかけを始め、7月に集まった福祉用具を被災地におくりました。被災地には、国や他団体によって多くの義援金や救援物資が集められています。国も福祉用具関係の支援に取り組んでいますが、被災三県が求めている福祉用具について、必要としているエンドユーザーまで届いていないという状況を、作業療法士の知人を通じて当会員の大阪保健医療大学保健医療学部講師の山田会員から聞き知る事となり、当会でも協力し会員及び関係団体に呼びかけて集めました。集めた福祉用具は、福祉用具供給協会経由で宮城の作業療法士協会理事に送り、手入れをした後、現地の施設へ送られ、その後配分されました。

3) 学習会アンケート実施

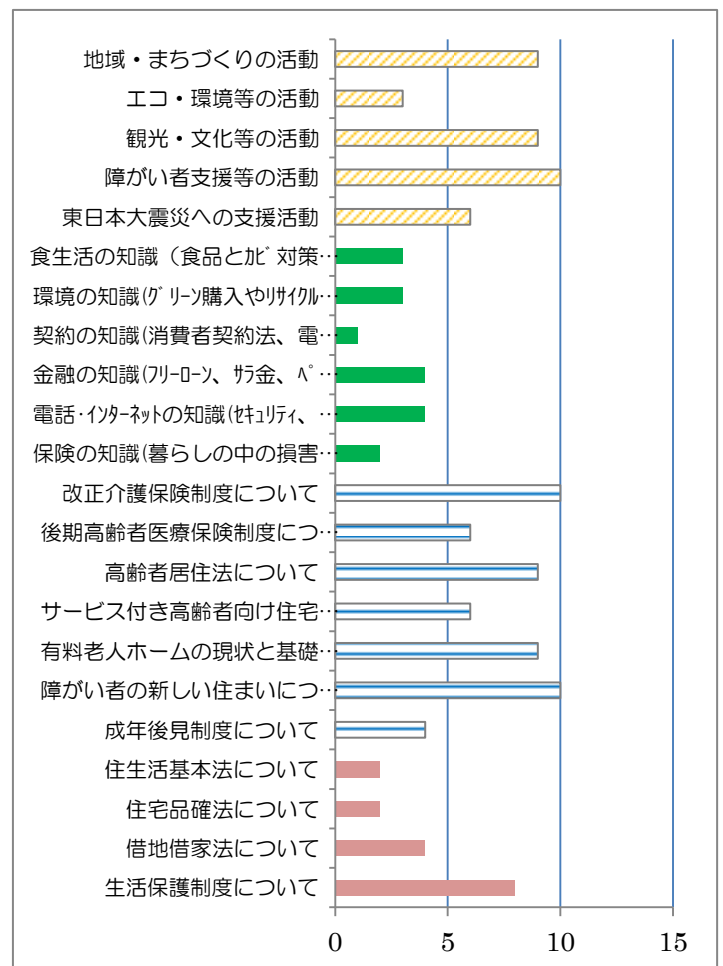
H24年4月、本会の定例会で実施している学習会について、正会員の要望を知るためのアンケート調査を実施しました。4月末の時点で、正会員39名の中、21名の方に回答をいただきました。

回答結果から、高齢者や障がい者がおかれている住環境や関わる施策等について理解を深めたいとの要望が多く、次に、他の団体の活動を知りたいという要望がありました。学習会は会員等のスキルアップを目的に実施していますが、「知識」だけでなく「人の繋がり」「他者への理解」を深めることもふくまれています。アンケートの結果、会員もその思いを共有していることを伺い知る事ができました。

アンケートの結果は、ホームページに掲載。

4) その他

会員が全員参加できる活動企画を検討したが、23年度は実施に至らなかった。



開発（荊田理事）

23年度は、具体化の進展はなかった。

事業（畑理事）

開催日	テーマ	会場	参加者	内容・成果
H23.11.23	東北/関西 ポジティブ 生活文化交流祭	扇町公園	13名	すべらんうどんを出店 参加諸団体との交流

■ 事業収支

売上収入	55,500 円	
支出	65,992 円	(ゆめかぜ基金への寄付1万円を含む)
収支計	△10,492 円	

■ 成果

おかげさまで行列ができるうどん屋になり、主催者側のある人は「いつ行っても行列ができていて、残念ながら食べられませんでした。」とのこと。大変繁盛しました。会員の皆さんの協力、特に岡さんのおかげで大成功に終わりました。

広報（和泉理事）

- 11/23 イベントにおいて、ちらしを作成配布して、ふくてつくを紹介し、他団体と交流
- H23年12月 ふくてつく会報81号を発行
- H24年1月 HPをリニューアル（荊田会員の尽力による）
- リーフレットを随時修正
- 初参加者用に広報セット（リーフレット・新聞等）を準備
- H24年6月 ふくてつく会報82号を発行

親睦（杉浦理事・補佐：後藤会員）

開催日	テーマ	会場	参加者	内容・成果
H23.12.3	忘年会	天王寺甘太郎	22名	年末恒例の忘年会
				多数の参加。会場が狭く、窮屈な思いをさせましたが、和気あいあいと楽しいひと時を過ごすことができました。
H24.3.11 ～12	春の一泊 レクリエーション	京都府畑野町 広野 岡会員 邸	曾我部・山本・松田 岡・樋口・稲住・後藤・ 杉浦・西川 以上9名	一泊二日の親睦会
				参加者はやや少数ながら、庭の樹木伐採など貴重な活動体験。夜は曾我部会員の尽力で、蟹のフルコースに皆大満足。来年もぜひにとの要望がでる。

※各回の費用は参加者負担による。

渉外（中北理事）

ふくてっく外部連携 平成 23 年度事業報告（H23/7/1～H24/6/30）

A：事業活動（有償無償に関わらず、外部に対する事業活動）

No	事業名	日付 期間	事業目的・内容等
	相手先・依頼主 場所		成果
1	有ボ連		7/20 フェリスモンテにて懇親会 9/21 12/21 2/22 3/21 4/18 6/20 定例会 2/25 シンポ「大震災に学ぶ地域のきずな」
	大阪市立社会福祉センター その他		定例会において活動報告等による情報・意見交換 シンポジウムを協働開催
2	青葉園		ふくてっくメンバー参加による仮設ハウス再活用への協力 8/25 夏祭り 12/10 年末行事
	西宮市社会福祉協議会 青葉園、その他		仮設ハウス再活用整備を支援し、夏祭り等行事において評価を受けた
3	中部障害者解放センター		7/11 夏祭り（砂川えりかコンサート） 12/25 理事会 12/27 忘年会 3/24 理事会 5/26 総会 6/8 理事会
	同上 同上		夏祭りにはふくてっく会員も多数参加し、交流を深めた
4	ななとこ庵		8/2 9/21 運営会議 開設以来、運営会議に参加して支援を続け、協働機会に備える体制を整えている。
	NPO樹（いつき） ななとこ庵		
5	JIA 福祉部会		9/10 見学会（松の実幼稚園）畑・清水・中北 3/24 セミナー「ランドスケープデザインにおける UD の視点」 6/16 見学会（宝塚プラザコム）
	同上		見学会等の情報を紹介し、会員の研修機会を提示 また、研修内容を会にフィードバックしている
6	阿倍野・あいちゃん		9/17・18 このゆびと～まれ講演会 9/26 同、反省会 1/6 阿倍野の福祉環境を考える会 1/23 2/20 3/23 5/15 6/14 あいちゃん会議
			地域に根ざした活動への参加を通じて、ふくてっくのミッション開拓
7	熟年会議		1/25 インクルーシブ教育理念 4/3 壊れる民主主義創る民主主義
	同上		多様な識者との交流を通じて社会を憂う様々な考え方に触れ、 新たな課題発見の場としている
8	淀川地域連携		ミーティング 2/6 3/5 4/2 5/7 5/10 6/11 有ボ連参加団体の協働も得て、地域共生ケアの体制整備に向けた取組 を、その端緒につけることができた。
	福井医院、その他		
9	その他		3/13 セミナー「障害者をめぐる法制度の動向と権利擁護」清水・中北 3/21 大阪 NPO センター総会

有ボ連では「大震災に学ぶ地域のきずな」シンポジウムに取組み、その他にも参加団体との連携で協働企画が芽生えつつあります。

地域に根ざした福祉ネットワークの構築に関して、ななとこ庵を起点とする動きはややこう着状態ですが、一步一步の地歩を固めつつあります。一方で、阿倍野では「このゆびと～まれ」講演企画を契機としてA I C H A Nの集まりができ、また淀川区では真友会を立ち上げています。

J I A福祉部会や福医建など、長くかかわってきた専門家集団とのパイプも改めて活性化に向けて動き始めています。

■H 2 3 年度 外部連携は収益費用の発生なし

理事長総括（小川理事長）

■執行部に関して…

一年前に「理事の権限と責任」という重い責務を担って動き始めた執行部ですが、各理事に役割分担した事で行うべき事ははっきりし、それぞれの責務に着手出来たのではないでしょう。

ただ、年度を通じて「どう動けばよいか」と模索し続け、不本意に終わった方々については、まだ最初の一年、思うように活躍できなかった方々には是非24年度は頑張ってもらいたいと思います。

■部会に関して…

23年度は全体として、主には継続部活動に留まる結果となる中、こむねつと部の第三者評価では、「奈良県手をつなぐ育成会」での取組で貴重な経験と、今後も継続して取組むという大きな成果をあげた事は会としても大きな一歩でありました。

収支に関しては相変わらず東大阪部が大きく余剰金として残す形となり、その他各部はそれなりのやりくりをし、マイナスにならない状態に踏み止まっている状態となりました。

■会全体に関して…

ここ数年活動メンバーが偏って（固定化）きている事を少し危惧しています。

それだけふくてっくの活動が偏って（専門的？）きたという事に他ならないのですが、良い面、悪い面がそれぞれあると感じているが、23年度はこの件に関して特に手を打つ事も無く過ぎてしまった事が少し悔まれます。

現在の活発な部活動は専門的スキルをもたないと参加が難しいものになってきています。

会としては部活動や全員参加の催し物も含め、特別な資格を持たなくとも参加できる会を続けたいと願っているが、なかなかうまくはいかないと感じた23年度でした。

住環境研究部会 平成 23 年度事業報告 (H23/7/1~H24/6/30)			
A：事業活動 (有償無償に関わらず、外部に対しての事業活動)			
No	事業名	日付 期間	事業目的・内容等
	相手先・依頼主		成果
	場所		
1	住宅改修	H23	聴覚障害者の住宅 階段手すり他
	H氏	5.30	
	天王寺区	～	
2	住宅改修	H23	WC、階段手すり
	N氏	8.9	
	大阪市北区	～	

住環境研究部会 平成 23 年度活動報告 (H23/7/1~H23/6/30)			
B：部会活動 (会員の研修会や勉強会、他機関との会合等)			
No.	活動名	日付 期間	活動目的・内容等
	参加人数		成果
	場所		
1	セミナー参加	H23	福医建研究会主催による学習会にてふくてつく意見発表
	3名	7.16	
	福医建		
2	見学	H24	さわやか苑 特養
	2名	11.	
	豊中市	18	
3	見学	H24	バリアフリー展
	?	4.21	
	インテックス大阪		
4	学集会	H24	「養生訓」に学ぶ
	3名	5.19	
	照明器具協同組合		
5	学習会参加	H24	福医建研究会主催 学習会「認知症と住環境」
	1名	5.26	
6	見学会	H24	帝塚山 特養
	11名	6.13	
	大阪市住吉区		

住環境研究部会 平成 23 年度収益費用報告 (H23/7/1~H24/6/30)				
事業・部会 No	事業名	収益	費用	差益
A-1	住宅改修 北区N邸	204,000	167,753	36,247
A-2	住宅改修 天王寺区H邸	1,254,680	1,215,082	39,598
その他			11,895	△11,895
合計		1,458,680	1,394,730	63,950

A-2の収支は、追加改修工事が重なり、これがふくてつくへの発注となったため多額となった。

研修部会 (鎌田会員 協議参加：小川・山本)

研修部会 H23 年度活動報告 (H23/7/1～H24/6/30)			
B：部会活動 (会員の研修会や勉強会、他機関との会合等)			
No	活動名	日付 期間	活動目的・内容等
	参加人数		成果
	場所		
1	パソコン教室	7/9	メールの送受信、ワードでの文書作成。
	7名		各自のパソコン機能やレベルに応じて資料にそって文章を作成した。
	社会福祉センター1階		
2	パソコン教室	11/5	デジカメとパソコンとの関連の説明。
	4名		資料に添ってデジカメのワード、メールとの関連プリントアウト等 画像編集について説明。
	社会福祉センター1階		
3	パソコン教室	2/4	メールの送受信、ワードでの文書作成。
	3名		各自のパソコン機能やレベルに応じて資料にそって文章を作成した。
	社会福祉センター1階		
4	パソコン教室	3/3	ツイッターの説明。
	3名		各自ツイッター登録をした。
	社会福祉センター1階		
5	パソコン教室	4/7	ツイッターの説明。
	3名		ツイッターの閲覧等。
	社会福祉センター1階		
6	パソコン教室	5/12	ツイッターの説明。
	3名		ツイッターの閲覧等。
	社会福祉センター1階		
7	パソコン教室	6/2	パソコンの諸機能についての説明。
	4名		各自パソコンでの文章作成等。
	社会福祉センター1階		

研修部会 平成 23 年度収益費用報告 (H23/7/1～H24/6/30)				
事業・部会 No	事業名	収益	費用	差益
B-1	パソコン教室	参加費 500×7=3,500	日当(荻田氏) 3,000	500
B-2	パソコン教室	参加費 500×4=2,000	日当(荻田氏) 1,500	500
B-3	パソコン教室	参加費 500×3=1,500	日当(荻田氏) 1,000	500
B-4	パソコン教室	参加費 500×3=1,500	日当(荻田氏) 1,000	500
B-5	パソコン教室	参加費 500×3=1,500	日当(荻田氏) 1,000	500
B-6	パソコン教室	参加費 500×3=1,500	日当(荻田氏) 1,000	500
B-7	パソコン教室	参加費 500×4=2,000	日当(荻田氏) 1,500	500
合計		¥13,500	¥10,000	¥3,500

木工部会（西川会員 主たる活動メンバー：有馬、長岩、樋口）

木工部会 平成 23 年度事業報告 (H23/7/1～H24/6/30)			
A：事業活動 (有償無償に関わらず、外部に対しての事業活動)			
No	事業名	日付 期間	事業目的・内容等
	相手先・依頼主		成果
	場所		
1	さざなみ木工教室	10/19	老人に対する木工遊び
	住之江社協	10/24	
	南港北、北巽公民館		少しの時間であるが老人の楽しみを作った
2	大阪風船普及協会	10/20	大きな風船づくりの木枠作成
	大阪風船普及協会	4/25	障害者の風船づくりのための便利道具製作
	元原軒先、佃作業所		
3	日立電気チェーン店フェア	10/29	電気店の販売セールでの子どもたちへの木工遊び
	日立電気関西支社	10/30	不特定多数の親子が楽しむ時間作り
	大阪梅田センター		
4	池島祭り	11/23	池島市民への自由木工
	福祉法人海の子の家		市民祭りへの協力
	池島公園		
5	パンショップ家具づくり	11/7～	障害者の職場拡大に向けてのパン工房家具づくり
	NPOわかば	12/1	大いに貢献できた
	大正区		
6	大阪市子どもカーニバル	4/22	※悪天候につき中止
	大阪ボランティア情報S		
	大阪城公園		

木工部会 平成 23 年度収益費用報告 (H23/7/1～H24/6/30)				
事業・部会 No	事業名	収益	費用	差益
A-1	さざなみ木工教室	18,000	17,000	1,000
A-2	大阪風船普及協会	16,000	16,000	0
A-3	日立電気チェーン店フェア	217,272	191,200	24,652
A-4	池島祭り	25,000	42,000	△17,000
A-5	パンショップ家具づくり	400,000	400,000	0
A-6	大阪市子どもカーニバル			
	木工機械倉庫賃料	0	203,460	△203,460
合計		674,772	869,580	△194,808

■H23年度 部会活動

特に活動なし、必要時に応じ連絡または集まる。

東大阪部会（清水会員）

東大阪部会 平成 23 年度事業・活動報告（H23/7/1～H24/6/30）

A：事業活動（有償無償に関わらず、外部に対しての事業活動）

No	事業名	日付 期間	事業目的・内容等
	相手先・依頼主		成果
場所			
1	東大阪市高齢者・重度障害者住宅改造費助成制度適正検証事業	H23 年 7/1～ H24 年 6/30	高齢者・障がい者の為の住環境のバリアフリー化を促進し、データ収集分析を踏まえ、施策提言に結びつける。高齢者・障がい者の在宅生活の継続に寄与する共に、施工業者のスキルアップや地域福祉力の育成に寄与する。検証活動（建築士・セラピスト）・事前相談会・報告書作成・市民啓発資料作成・データ収集等実施
	東大阪市		H23 年 4/1～H24 年 3/31 検証実績/高齢者世帯 81 件・重度身体障がい者世帯 17 件 セラピスト検証活動 18 件 事前相談会実績 29 件 H23 年度報告書作成 H24 年度記入例及び Q&A 集等作成
	東大阪市内		
2	東大阪市介護保険住宅改修適正検査事業	H23 年 7/1～ H24 年 6/30	住宅改修の質的向上を第一義とし、副次的に不適切な介護保険適用を抑制する。検証活動・申請書類等作成・事例検討会・データ収集等実施
	東大阪市		H23 年 4/1～H24 年 3/31 検証実績/事前審査 204 件 事後審査 186 件 H23 年度報告書作成 H24 年度手引書及び記入例作成
	東大阪市内		
3	東大阪市介護保険住宅改修研修会 講師	H24 年 ①2/3 ②2/8 ③3/8 18:30 ～ 20:30	東大阪市住宅改修施工事業者・介護支援専門員等を対象に、介護保険住宅改修制度に関する理解を深めるための研修を、施工事業者登録説明会と同時に開催する。
	東大阪市		参加者：①施工事業者 112 名 ②介護支援専門員等 111 名 ③施工事業者 132 名
	東大阪市内庁舎		検証内容と施工計画書の記入については、業者への認識、求めている内容の周知がなされた。
4	大阪府下自治体バリアフリー施策実態調査		H24 年度に延期
	大阪府下自治体		
	大阪府下		
5	ワンポイントアドバイス冊子発行	H24 年 6 月末予定	東大阪市に所属する介護支援専門員を支援するために、住宅改修アドバイス集を作成する。500 部発行
			介護支援専門員が積極的に住宅改修等に関わり、適切な計画のもと、高齢者や障がい者が安全で安心した暮らしを実現する。
6	出前講座		H24 年度に延期

B : 部会活動 (会員の研修会や勉強会、他機関との会合等)

No	活動名	日付 期間	活動目的・内容等
	参加人数		
	場所		
成果			
1	定例検討会	H23 年 7 月 ~H24 年 6 月第 3 土曜 日	東大阪活動における情報の共有と促進。課題と対策の検討。共通認識及びスキルの向上。 検証基準や技術手法を共有し、個人ではなくチームで取り組み適切、且つ、迅速な適正検証活動が推進されている。
	検証メンバー全員		
	ATC ふくてつく事務局他		
2	学習会	H24 年 1/26 17:30~ 20:00	東大阪職員との意思疎通を図り、お互いの問題意識を共有する。 住宅改修及び改造の質的の向上をめざし、共通認識のもと不適切な制度適用の抑制が図られた。
	東大阪職員 5 名参加 検証メンバー 13 名参加		
	東大阪市庁舎 12 階		

H23 年度東大阪検証活動担当者

	検証記録 改造助成・介護住改 活動日/担当者		改造助成 事前相談会開催日 担当者		活動予定 作成/ 連絡	部会・検討会 原則第 3 土曜日			ふくてつく 定例会	その他 活動予定
	原則：木曜 太字は水曜	集積 送信	第 1・3 木曜	担当	担当者	開催 日	議事 進行	記録	ワポイント アドバイス担当	
4 月	7. 14. 21. 27	清水	① 4/7	山本	1. 15 小川	4/2	清水	山本	清水	
			② 4/21	鎌田	8. 22 清水	4/16	川北	● 清水	「排泄姿勢」	
5 月	12. 19. 26	後藤			6. 20 清水	5/21	山本	鎌田	小川	
			③ 5/19	小川	13. 27 山本				「介護保険 住宅改修」	
6 月	2. 9. 16. 23. 30	鎌田	④ 6/2	川北	3. 17 清水	6/18	川北	小川	川北	改造助成・介護 住改 H22 年度 報告書納品
			⑤ 6/16	磯田	10. 24 川北				「福祉用具 等の活用」	
7 月	7. 14. 21. 28	山本	⑥ 7/7	後藤	1. 15. 29 清水	7/16	山本	春岡	後藤	
			⑦ 7/21	大橋	8. 22 小川				「階段昇降 機」	
8 月	4. 11. 18. 25	磯田	⑧ 8/4	清水	5. 19 山本	8/20	川北	大塚	山本	
			⑨ 8/18	中北	12. 26 清水				「手すり」	
9 月	1. 8. 15. 21 . 29	川北	⑩ 9/1	清水	2. 16. 30 清水 9. 22 川 北	9/17	清水	川北	定例会 暴風警報発 令の為中止	9/29 東大阪市 と協議
			⑪ 9/15	鎌田						
10 月	6. 13. 20. 27	小川	⑫ 10/6	後藤	7. 21 小川	10/15	川北	寺岡	大塚	
			⑬ 10/20	山本	14. 28 清水				「滑りにく い床」	H24 年度活動計 画・見積書作成

11月	2.10.17.24	大塚	⑭ 11/2	磯田	4.18 山本 11.25 清水	11/19	山本	磯田	大橋 「日本家屋 とバリアフ リー」	
			⑮ 11/17	中北						
12月	1.8.15.21	大橋	⑯ 12/1	小川	2.16 川北 9.22.30 清 水	12/17	川北	清水	鎌田 「多機能」	
			⑰ 12/15	川北						
1月	12.19.26	中北			6.20 小川 13.27 清水	1/14	山本	大橋		・1/26 東大阪 市職員と学習 会
			⑱ 1/19	清水						
2月	2.9.16.23	春岡	⑲ 2/2	大橋	3.17 山本 10.24 清水	2/18	川北	中北	春岡 「浴槽跨ぎ の検証」	・介護住改研修 会 2/3(金) 施工 事業者 2/8(水) ケア マネ等
3月	1.8.15.22	寺岡			2.16 川北 9.23.30 清 水	3/17 3/31	山本 清水	後藤 清水	磯田 「介護保険 の給付制限」	・介護住改研修 会 3/8(水) 施 工事業者 ・H24年度契約

東大阪部会 平成23年度収益費用報告 (H23/7/1~H24/6/30)				
事業・部会 No	事業名	収益	費用	差益
A-1	東大阪市高齢者・重度障害者 住宅改造費助成制度適正検 証事業	3,339,000	諸謝金 5,265,000 印刷製本費 20,774 通信運搬費 5,840 消耗品費 181,417 旅費交通費 525,390 車両費 800	1,323,409
A-2 A-3	東大阪市介護保険住宅改修 適正検査事業	3,666,600	会議費 1,200 租税公課 10,000 支払手数料 16,170 雑費 3,600 【合計 5,682,191】	
A-5	ワンポイントアドバイアス 冊子	0	諸謝金 348,000 印刷製本費 170,100 【合計 518,100】	△518,100
合計		7,005,600	6,200,291	805,309

11.5%

福祉用具部会（古場会員 部会メンバー：杉浦・荻田）

福祉用具部会	平成 23 年度事業報告（H23/7/1～H24/6/30）
A：事業活動（有償無償に関わらず、外部に対しての事業活動）：該当なし	

福祉用具部会	H23 年度活動報告（H23/7/1～H24/6/30）
B：部会活動（会員の研修会や勉強会、他機関との会合等）	

No	活動名	日付 期間	活動目的・内容等
	参加人数		成果
	場所		
1	車いす考察	23 年 7/11	車いす使用できる「車いす適合マーク」を貼っている建物が少ない。 ハートビル法、大阪市まちづくり条例、バリアフリー新法を調べた。
	3 人		
	ATC ふくてっく事務局		
2	車いす考察	23 年 8/1	1、平成 23 年活動計画に基づいて、活動内容を検討した。 2、各自で情報収集した活動テーマがあれば、発表した。
	3 人		
	ATC ふくてっく事務局		
3	車いす考察	23 年 9/28	「高齢化社会における看護・介護支援技術」セミナー ※参加中止
	府立産業技術研究所		
4	歩行補助器考察	23 年 10/17	1、リーフレット・ふくてっく新聞での福祉用具部会紹介内容を検討。 2、ふくてっく新聞記事に掲載する杉浦理事が開発した歩行補助器の コンセプト記事を執筆依頼した。
	3 人		
	ATC ふくてっく事務局		
5	歩行補助器考察	23 年 11/14	1、歩行補助器を図面から見て、形状・機能を検討した。 2、3D VIACAD を操作しながら、形状を修正した。
	3 人		
	ATC ふくてっく事務局		
6	歩行補助器考察	24 年 2/13	歩行補助器又は福祉用品の中で今後検討すべきものの情報を収集。
	3 人		
	ATC ふくてっく事務局		
7	歩行補助器考察	24 年 3/19	歩行補助器模型を見ながら、歩行補助器の大きさを検討した。
	3 人		
	ATC ふくてっく事務局		
8	見学会	24 年 4/19	バリアフリー 2012（総合福祉展）で、福祉用具を観察した。
	3 人		
	インテックス大阪		
9	歩行補助器考察	24 年 5/14	市販歩行補助器と比較して、歩行補助器の機能・製作工程を検討した。
	3 人		
	ATC ふくてっく事務局		
10	歩行補助器考察	24 年 6/11	1、歩行補助器の問題点を検討した。 2、福祉用具の情報を検討した。
	3 人		
	ATC ふくてっく事務局		

福祉用具部会	平成 23 年度収益費用報告（H23/7/1～H24/6/30）
収益費用の発生なし	

こむねっと事業部会（中北会員 6/2 こむねっとコア会議）

コアメンバー：秋岡、池端、和泉、稲住、岡、菊田、杉浦、畑、小川、中北

こむねっと事業部会 平成 23 年度事業報告（H23/7/1～H24/6/31）			
A：事業活動（有償無償に関わらず、外部に対しての事業活動）			
No	事業名	日付 期間	事業目的・内容等
	相手先・依頼主		成果
	場所		
1	福祉サービス第三者評価	9.14	特別養護老人ホーム至善荘の第三者評価
	（社福）至善会	～	城東区の特別養護老人ホームの第三者評価を実施するに当たり、
	大阪市城東区	11.16	下打ち合わせ、内部検討会（2回）、訪問調査（2日）、評価会議を経て11/16に法人説明。府推進機構に報告して評価結果公表。
2	特建定期検査報告	9.14	特別養護老人ホーム至善荘の平成23年度定期検査報告
	（社福）至善会	～	特殊建築物および建築設備（非常照明・換気）に関する保全条件検査
	大阪市城東区	10.26	
3	特建定期検査報告	10.4	福井医院及び併設する福井寮の平成23年度定期検査報告
	（医）修真会	～	特殊建築物および建築設備（非常照明・換気）に関する保全条件検査
	大阪市淀川区	10.26	
4	青葉園新拠点開発	8.29	青葉園の遊撃拠点施設の開発調査
	（社福）西宮市社協	～	既存建物空室に標記の拠点を創るための現地調査活動
	西宮市		（不動産取引不調につき事業の実施は不発に終わる）
5	たかとり第三者評価	H23.12	やすらぎの丘・たかとりワークス 福祉サービス第三者評価
	（社福）奈良県手をつなぐ 育成会	～	標記の評価活動に取り組む過程を通して、福テック第三者評価体制を整備する。
	奈良県高市郡高取町	H24.5	検討会議9回、訪問調査2日のほか、施設見学2か所など 延100人・日に及ぶ活動を遂行し、望外の成果を結実した。
6	S T社第三者評価	H24.6	スバル・トータルプランニング(株)の第三者評価にとりくむための
	スバル・トータルプランニング(株)		事前協議および内部研修の第1回目実施
	羽曳野市・守口市		活動にかかる委託契約条件の成約、活動体制の確立
7	第三者評価推進事業		目的：福祉サービス第三者評価事業の振興
	大阪府同事業推進機構 及び 評価機関連絡会		7/8 第1回推進委員会 7/22 評価機関連絡会幹事会 7/27 評価機関連絡会 9/13 評価機関連絡会幹事会 10/19 評価機関連絡会 11/16 評価機関連絡会幹事会 12/12 推進委員会
	大阪府		8月～10月養成研修（中北・清水・大塚会員） 1/24 評価機関連絡会幹事会 2/15 評価機関連絡会 2/21 継続研修（山本・古場会員） 3/27 第2回推進委員会 4/12 評価機関連絡会幹事会 5/16 評価機関連絡会 6/11 第3回推進委員会 6/18 評価機関連絡会幹事会

※23年度、第三者評価調査者：大塚 小川 鎌田 古場 清水 杉浦 中北 畑 山本 以上9名

こむねつと事業部会 H23 年度活動報告 (H23/7/1～H24/6/30)			
B：部会活動 (会員の研修会や勉強会、他機関との会合等)			
No	活動名	日付 期間	活動目的・内容等
	参加人数		成果
	場所		
1	こむねつと部会	8/20	学習会
	A T C		1. こむねつと新体制と活動方針 2. 学習会「保育所と幼稚園の一元化」その他
2	こむねつと部会	12/17	コア会議兼学習会
	12名 A T C		1. 上半期活動経過のふり返り 2. 事業採算性の吟味と活動報酬規程の検討 3. 下半期の計画 (特に、奈良県手をつなぐ育成会の取組検討)
3	こむねつとコア会議	2/4	コアメンバーにより活動内容の点検
	12名 大阪市立社会福祉会館		第三者評価・建物検査のほか、共生ケア環境整備事業および障害者の社会参加支援事業構想などについて意見交換
4	こむねつとコア会議	6/2	コアメンバーにより 23 年度の総括と 24 年度計画を確認・検討
	11名 関西照明器具協同組合		スバル・トータルプランニング社の第三者評価に臨む規定を取り決め社会的養護施設第三者評価に臨む方針を確認

ロジック・モデルにおいて短期目標とした課題の達成状況

- ①部会コアメンバー体制の整備を終えた。
- ②評価機関連絡会を一定組織化された運動体にまとめ、推進機構を通じて事業振興に影響力を発揮。
- ③奈良県手をつなぐ育成会の第三者評価取組を通じて、評価機関としての体制を整えた。
- ④建物検査は目標の2件受注を達成。
- ⑤共生ケア環境づくりの構想に関しては、淀川区での取組をその端緒につけた。

こむねつと事業部会 平成 23 年度収益費用報告 (H23/7/1～H24/6/30)				
事業・部会 No	事業名	収益	費用	差益
A-1	至善会 第三者評価	136,290	263,230	△126,940
A-2	至善荘 建物検査	240,790	138,622	102,168
A-3	福井医院 建物検査	268,580	140,560	128,020
A-4	青葉園拠点開発	0	44,900	△44,900
A-5	奈良 第三者評価	231,000	213,790	17,210
A-6	S T 第三者評価	0	0	0
A-7	福祉サービス第三者評価	0	27,500	△27,500
合計		876,660	828,602	48,058

活動計算書

平成23年 7月1日から平成24年 6月30日まで

(単位:円)

科目	金額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	390,000	
通信会員受取会費	2,500	
学生会員受取会費	3,000	
例会参加受取会費	0	
		395,500
2. 受取寄付金		50,000
3. 事業収益		
住環境研究	1,458,680	
木工	674,772	
研修	13,500	
福祉用具	0	
こむねっと	876,660	
東大阪	7,005,600	
イベント	55,500	
		10,084,712
4. その他収益		
雑収入	33,664	
		33,664
経常収益計		10,563,876
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	108,700	
人件費計	108,700	
(2) その他経費		
材料費	310,087	
業務委託費	1,340,295	
諸謝金	6,180,619	
地代家賃	203,460	
印刷製本費	248,464	
通信運搬費	30,045	
消耗品費	181,417	
旅費交通費	594,557	
車両費	800	
会議費	9,900	
租税公課	11,200	
研修費	27,500	
支払手数料	22,969	
寄付金	10,000	
雑費	89,182	
その他経費計	9,260,495	
事業費計		9,369,195
2. 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	129,600	
人件費計	129,600	
(2) その他経費		
諸謝金	63,333	
地代家賃	400,812	
印刷製本費	28,507	
通信運搬費	58,459	
消耗品費	14,846	
旅費交通費	33,880	
会議費	56,100	
保険料	39,200	
租税公課	70,237	
諸会費	10,000	
支払手数料	31,418	
減価償却費	4,274	
交際費	10,000	
雑費	32,225	
その他経費計	853,291	
管理費計		982,891
経常費用計		10,352,086
当期経常増減額		211,790
当期正味財産増減額		211,790
前期繰越正味財産額		4,697,208
次期繰越正味財産額		4,908,998

貸借対照表
平成24年6月30日

(単位:円)

I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	4,953,281		
流動資産合計		4,953,281	
2. 固定資産			
什器備品	9,555		
保証金	137,412		
固定資産合計		146,967	
資産の部合計			5,100,248
II 負債の部			
1. 流動負債			
預り金	191,250		
流動負債合計		191,250	
負債の部合計			191,250
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		4,697,208	
当期正味財産増減額		211,790	
正味財産の部合計			4,908,998
負債・正味財産の部合計			5,100,248

特定非営利活動法人ふくてつ

財産目録
平成24年6月30日

(単位:円)

I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
手許現金	97,721		
三菱東京UFJ銀行梅田支店	3,840,183		
ゆうちょ銀行	945,877		
郵便振替口座	69,500		
流動資産合計		4,953,281	
2. 固定資産			
什器備品	9,555		
保証金	137,412		
固定資産合計		146,967	
資産の部合計			5,100,248
II 負債の部			
1. 流動負債			
預り金	191,250		
流動負債合計		191,250	
負債の部合計			191,250
正味財産			4,908,998

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正NPO法人会計基準協議会)によっています。

- (1) 固定資産の減価償却の方法
有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却をしています。
- (2) 消費税等の会計処理
消費税は税込経理により処理しています。

2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下のとおりです。

(単位:円)

	住環境研究	木工	研修	こむねっと	東大阪	イベント	事業部門計	管理費	合計
I 経常収益									
1. 受取会費							0	395,500	395,500
2. 受取寄付金							0	50,000	50,000
3. 事業収益	1,458,680	674,772	13,500	876,660	7,005,600	55,500	10,084,712		10,084,712
4. その他収益							0	33,664	33,664
経常収益計	1,458,680	674,772	13,500	876,660	7,005,600	55,500	10,084,712	479,164	10,563,876
II 経常費用									
1. 人件費							0		
給料手当		108,700					108,700	129,600	238,300
人件費計	0	108,700	0	0	0	0	108,700	129,600	238,300
2. その他経費									
材料費		285,087				25,000	310,087		310,087
業務委託費	1,340,295						1,340,295		1,340,295
諸謝金	39,598	271,021	10,000	595,000	5,265,000		6,180,619	63,333	6,243,952
地代家賃		203,460					203,460	400,812	604,272
印刷製本費	80			57,510	190,874		248,464	28,507	276,971
通信運搬費	11,815			11,690	5,840	700	30,045	58,459	88,504
消耗品費					181,417		181,417	14,846	196,263
旅費交通費	1,000			68,167	525,390		594,557	33,880	628,437
車両費					800		800		800
会議費				8,700	1,200		9,900	56,100	66,000
保険料							0	39,200	39,200
租税公課				1,200	10,000		11,200	70,237	81,437
研修費				27,500			27,500		27,500
諸会費							0	100,000	10,000
支払手数料	1,942	1,312		3,305	16,170	240	22,969	31,418	54,387
減価償却費							0	4,274	4,274
寄付金						10,000	10,000		10,000
交際費							0	10,000	10,000
雑費				55,530	3,600	30,052	89,182	32,225	121,407
その他経費計	1,394,730	760,880	10,000	828,602	6,200,291	65,992	9,260,495	853,291	10,113,786
経常費用計	1,394,730	869,580	10,000	828,602	6,200,291	65,992	9,369,195	982,891	10,352,086
当期経常増減額	63,950	-194,808	3,500	48,058	805,309	-10,492	715,517	-503,727	211,790

2011.9総会に提示された予算額 ↑ ↓ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↓ ↓

期首に示されていた活動予算との比較では
管理費収支のマイナス幅が微増しましたが、事業部門では各部の収支が概ね好転
特に東大阪部会が大幅に収支差額を増加させました。
この結果、期首の予算計画では赤字決算としていたところですが、結果として黒字に転じています。

3. 固定資産の増減内訳

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
什器備品	427,590	0	0	427,590	418,035	9,555
合計	427,590	0	0	427,590	418,035	9,555

パソコン1台、プロジェクター1台

24年度活動計画・活動予算

理事長所見（小川理事長）

□執行部に関して…

24年度も計画予定は目白押しとなっています。

特に渉外については正直これまであまり積極的ではなかった部分であり、23年度は連携構築の兆しを思わせる成果があり今後も精力的に関わる必要を強く感じます。

その他の担当役割に関しても今後の会運営を考えれば有益であろう事は理解できますので、みんなで実現の為、協力しましょう。

□部会に関して…

24年度は会発足からある意味全員参加活動の象徴でもあり、中心的活動であった木工部が解散・休部する可能性があるという事態は残念な事であります。

これも時代の流れと言えればそれまでであるが、あっさり流して受け入れるという事ではなく、これからのふくてっく活動の世の中との関わり方を考えなければならない結果と受け止めています。

その他の部も細々とながら、維持継続はしているが目標や成果を問う事になると存続が危ぶまれる部もありそうです。

24年度はその見極めも含めた部の見直し等が必要になるかもしれません。

□会全体に関して…

現在会としては、NPO法人（法人格を持つ団体）として本来あるべき体制や組織として機能する為の改革に歩みを進めようとしています。これは当然の動き、声であり、また会の運営を考えると致し方ない事ですが、少し窮屈になってきた様に思います。

それは緩やかでゆとりの部分が少なくなってきた事がそう感じるのではないのでしょうか。気持ちとしては、何とかこの両者が共存出来る方策を見つけ、健全な会活動・運営が出来る事を望む所ですが、少々時間が必要かも知れません。

とは言いながらも、24年度はスタートしますので事業活動・部会活動についてそれぞれ精一杯取り組み、是非納得のいく1年としたいと思いますのでよろしくお願いします。

事務局（中北事務局長）

■運営会議・理事会・総会の予定

定例理事会：8月 前年度決算および本年度計画について
3月 上半期決算および下半期計画について

臨時理事会：上記のほか、随時に理事長（または監事）が定款の規定により召集する。

運営会議：上記理事会に先んじて予め議論するため、
および理事会決議を要しない会運営事項の審議のために
概ね3か月以内ごとに事務局長が開催する。

H24年	7月	23年度決算理事会
	8月	定例総会（23年度決算・24年度事業計画）
	9月	運営会議
	12月	運営会議
H25年	3月	運営会議および理事会(上半期決算)
	6月	運営会議（理事会議案検討）

企画（清水理事）

1) 学習会/11回予定（1月は会員懇談会のため、学習会の開催なし）

8回は外部から講師を迎え、2回は部会の活動報告、1回は会員の発表の場とします。

- A) 市民活動 「(仮) 障害者自立支援とNPO / ハートフル石川代表」
「まちづくりとNPO」
- B) 人権擁護 9月「生活保護制度と現状 / 西田社会福祉士」
10月「子どもの精神的・心理的な問題と現状/ 阪南病医院 藤好看護師長」
「人権擁護とは」
「障がい者の新しい住まいについて」
- C) 高齢者関連 「改正介護保険制度について」
「有料老人ホームについて」
- D) 部会報告 7月「東大阪部会活動発表/ 住宅改修と連携」
2月「福祉用具部会活動発表/ (仮) 医療補助用具の開発」
- E) 会員企画 8月「有馬会員/ (仮) 87年の自分史と社会背景」

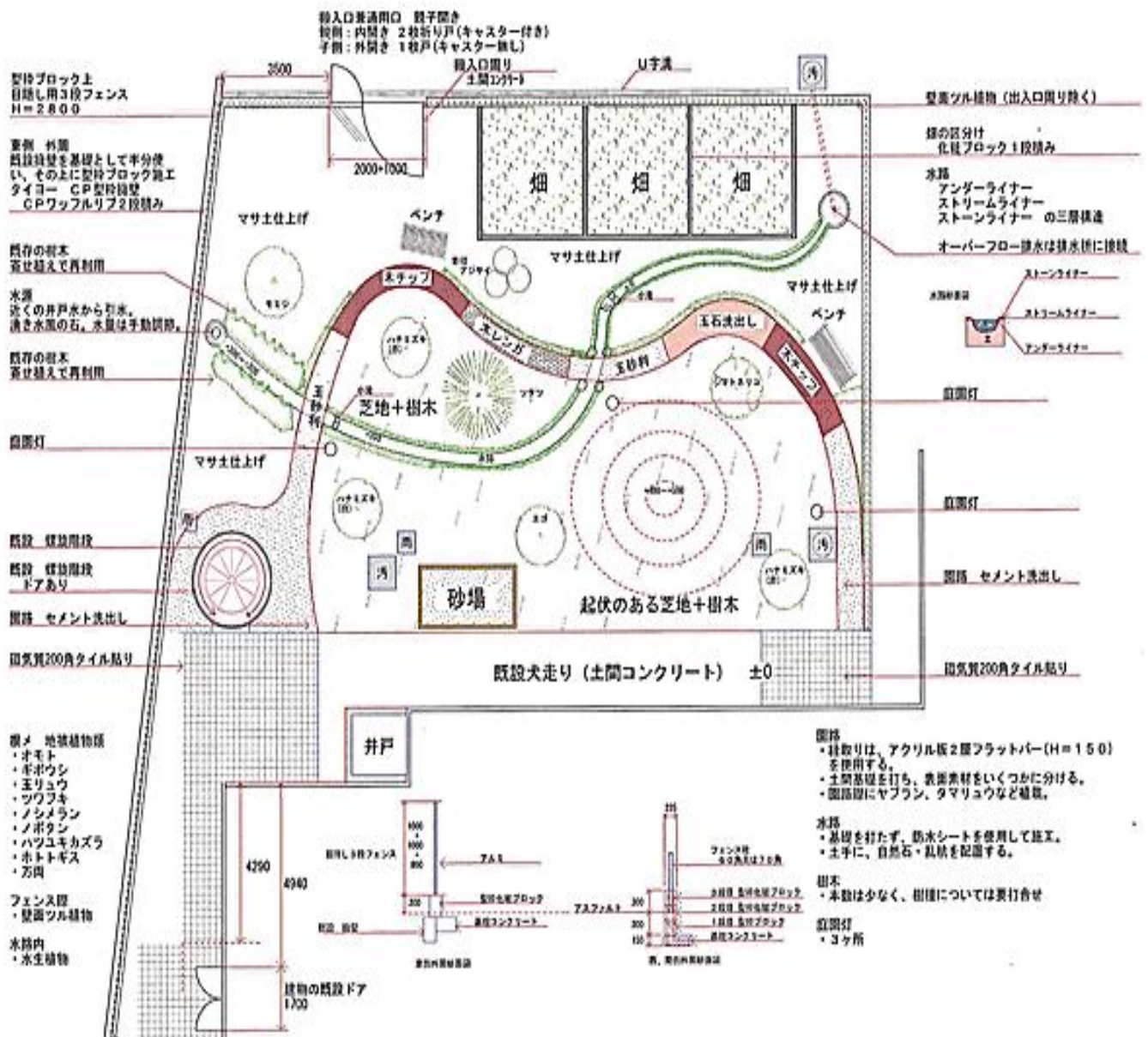
2) 見学会・・・人権擁護/他者への理解

(仮)「阪南病院/精神施設病棟と児童精神科病棟内羽曳野支援学校分室」

子どもの精神的・心理的な問題と現状を学習会で学んだ後、日を改めて見学日を設定します。

子どもの精神的・心理的な問題に対する関心が高まる中、少子化といわれる現在にあってもその需要は増大しています。子どもたちを取り巻く環境は昔と異なり、新しい種類のストレスにさらされています。また、核家族化が進み、大人もどう子どもに接していいのかわからないのが迷いがちです。子どもの問題が全て精神医学的な問題というわけではないでしょうが、身の周りの人だけで考えても結論の出ないことも多いのではないかと思います。児童精神科では、子どもの発達上の問題や心理的・精神医学的な問題を取り扱っております。子どもの精神医学的な問題に対して精神科医、小児科医、臨床心理士が連携して相談および治療にあたります。児童精神科病棟は治療の場であると共に、子どもたちが育つ場でもあることから、発達や成長といった視点を大切にしています。ただし、病状によっては、院内の救急病棟などでの入院加療を要する場合があります。対象年齢は中学3年生まで、院内学級にて学び育つ環境を提供し、学校への復帰に役立てたいと考えます。(阪南病院 HP より抜粋)

専門病棟付属庭園平面図 350㎡を超える庭園で土に触れ、自然を感じる空間を提供。



開発（荻田理事）

前年度はテーマを模索した一年であったが、24年度には、何らかの具体的な取組に結び付けたい。大阪府立大学研究室と協働して、障害者スポーツ器具の開発を検討している。その他、医療関係者やメーカーとのネットワークも拡張し、その中から開発テーマを見出したい。また、まだ明確なテーマの確立には至っていないが、パソコン研修においても新たなミッションを創出してゆきたい。

事業（畑理事）

平成25年7月に、ふくてっくは発足20年を迎える。この機に、過去にお世話になった方々を招いて記念集会を実施したい。会創設以来の最古参である有馬会員を実行委員長とし、畑理事を中心に委員会を設置して記念事業の趣旨（目的）、方針を協議し、25年度の予算に計画反映する。

広報（和泉理事）

- イベントの都度、適切なちらしを作成配布する。
- 会報の作成配布（清水理事を中心に）
- ホームページをより充実する。（荻田理事を中心に）
これについては各部会情報の更新を鋭意実施したい。
各部会等からの内容豊かな情報提供を迅速に求めたい。

親睦（杉浦理事 補佐：後藤・春岡会員）

No.	企画名称	予定日	企画内容・目的等
	参加予定		期待する成果
No.1	秋のバーベキュー	9/9	家族・友人を誘い合わせて実施し、会員の親睦とともに、家族サービスの日とする。 新会員の勧誘機会ともしたい。
	25名 羽衣青少年の家		
No.2	年末忘年会	12/1	年末恒例の忘年会。 23年末の参加（22名）を超える参加を目指して呼びかける。
	25名 未定		
No.3	春の一泊レクリエーション	3/9～10	好評に応じて、昨年の一泊企画を再度計画する。 多数の参加を実現するよう、呼びかける
	12名 京都府畑野町広野		

※各回、必要費用は参加者が負担する。

渉外（中北理事）

ふくてっく外部連携 平成 24 年度活動計画（H24/7/1～H25/6/30）			
A：事業活動（有償無償に関わらず、外部に対しての事業活動）			
No	事業名	日付 期間	事業目的・内容等
	相手先・依頼主 場所		期待する成果
1	団体連携		参加団体または団体連携との交流
	有ボ連 宅老連		活動理念・目的を相互に理解しあい、 共通認識のもとに市民協働を実践する。
2	事業所支援		多種の福祉事業所との連携
	青葉園・ななとこ庵 中部障害者解放センター ほか		ふくてっくとして支援できる活動を模索し、実践する。 これら事業所を核とする、地域共生ケア環境づくりを目指す。 7月（砂川えりかコンサートをプロモート）23日たかとり 24日中部障害者会報センター夏まつり 25日羽曳野コロセアム
3	地域連携		地域に根ざした協働システムの構築
	阿倍野 A I C H A N 淀川「真友会」		あいちゃんカフェ（10/27 親子フェスタほか） 真友会（淀川共生環境）7/12 学習会「もの忘れと介護」 8/20 健康教室 その他
4	専門職諸団体との交流		専門職による諸団体との交流
	JIA 福祉部会 福医建		建築・医療・保健その他、多岐に亘る専門職との交流を通じて 知見の拡大と連携機会の増幅に努める
5	福祉関係の公的団体連携		福祉・市民活動の公的団体との連携
	大阪 NPO センター OCVIC 市・府社会福祉協議会		左記の半公的機関との連携を通じて、ふくてっくに有用な情報を収集 するとともに、ふくてっくの社会的活動使命を模索する。
6	その他		ふくてっくの理念・活動目的とは、直接的な関連付けは遠いながら、 社会性を有する集会その他への参加
	（仮称）塾年連帯会議		あらゆる機会を捉えてふくてっくの外部連携の輪を広げる。

※ 24 年度より、渉外活動経費（交通費等の実費）を支弁する。

費用試算根拠

交通費 月平均会合 4～5 回 年 54 回 @ 500 円	27,000 円
その他費用（資料代その他有料会議参加費等）	3,000 円
合計	30,000 円

■本年度重点課題

地域に根ざした市民活動連携のリーディング

- ①（淀川区）北中島地区における医療・福祉・市民活動連携
- ②（福島区）ななとこ庵を拠点とする共生ケアシステム
- ③（阿倍野区）A I C H A N 活動
- ④ 宅老連に法人として入会し、組織として、より積極的に活動する。

以上、渉外活動を通じて多くの団体・個人とのネットワークを拡大・深化しつつ、単に関係性を維持するといった受動・消極的参加ではなく、その中から実際の協働プロジェクトに主体・積極的的に参画し、推進してゆく。

木工（小川理事長）

木工部昨年度の活動を振り返り、下記の通り総括して、今後は部会を本部（理事会）預かりとする。
 ※以下は部会運営を本部に託す決定の前における木工部会のメンバー間合意内容と、それに基づく予算案。

近年、公的機関からの収益を見込める活動依頼は途絶えており、今後も復活の見込みはない。
 こうした中で木工部が管理している木工機材の多くは活用機会もなく、その保管経費はふくてつくとしても大きな固定費となっている。

こうした状況を根本的に打開するために、ボール盤、丸鋸などの電動機材を処分し、手運び可能な道具類だけを残して、固定費負担を解消する。

木工 平成 24 年度活動計画 (H24/7/1～H25/6/30)			
A：事業活動 (有償無償に関わらず、外部に対しての事業活動)			
No	事業名	日付 期間	事業目的・内容等
	相手先・依頼主		成果
	場所		
1	さざなみ木工教室	10月 (未定)	老人向け木工教室
	住之江区社協		
	未定		
2	池島まつり	11/23	池島市民祭り
	社会福祉法人海の子の家		
	池島公園		
3	大阪市子どもカーニバル	4月下旬 (未定)	大阪市のカーニバル
	大阪ボランティア情報S		
	大阪城公園		
4	エフエー親子木工教室	(未定)	地域の親子木工教室
	エフエー		
	未定		

上記の事業については、木工機材の処分を前提として企画内容に反映させ、出展の可否等について主催者側と協議の上決定する。

事業の趣旨として、木工を第一義とするのではなく、木工を通じて、地域とのつながりや福祉（障害福祉・子育て等）の理解のために活動するという原点に戻る。その事とあわせて、従前の木工部会メンバーを中核としつつも、ふくてつく全会員が参加しやすい活動を目指す。

木工 平成 24 年度予算 (H24/7/1～H25/6/30)				
事業・部会 No	事業名	収益	費用	差益
A-1	さざなみ木工教室（2回）	18,000	26,200	△8,200
A-2	池島まつり	20,000	42,400	△22,400
A-3	大阪市子どもカーニバル	0	19,000	△19,000
A-4	エフエー親子木工教室	5,000	5,000	0
	倉庫賃料（7・8月分）		33,910	△33,910
合計		43,000	126,510	△83,510

ふくてっく本部（理事会）扱い活動の収益費用予算

ふくてっく本部（理事会）活動				
平成 24 年度予算（H24/7/1～H25/6/30）				
事業・部会 No	事業名	収益	費用	差益
企画	学習会講師謝金	0	88,888	△88,888
	企画・見学会経費	0	25,000	△25,000
開発				
事業				
広報	消耗品費		20,000	△20,000
親睦				
渉外	渉外活動経費	0	30,000	△30,000
	大阪NPOセンター年会費	0	10,000	△25,000
	有ボ連年会費	0	5,000	
	宅老連法人会費	0	10,000	
木工	(別記明細)	43,000	126,510	△83,510
合計		43,000	315,398	△272,398

住環境研究部会（畑会員）

住環境研究部「あおぞら特養構想」

我が国において、2015年には4人に一人、2030年には、3人に一人が65歳以上の高齢者に、また高齢者のうち、75歳以上の後期高齢者が2018年には半分以上になると言われています。

超高齢化がものすごい速度で、進行しています。今後は介護保険負担額が跳ね上がり、自己負担率がアップし、サービス内容は年々乏しくなるでしょう。

介護崩壊、介護難民、介護地獄、認知介護（認知症の親を認知症の娘、息子が介護）、末は介護放棄、介護ストレスによる殺人、孤独死・・・がますます増加し、大きな社会問題になるのは間違いないと思われます。

そのような悲劇を少しでも減らすために、提案いたします。

「街（例えば、自治会単位）全体を、一つの“特養”に！ 今の住まいを“居室”に見立て、“住宅”に“入所”している高齢者等が24時間、安心して暮らしていける住環境を創る」

そのためには、まず住宅のバリアフリー化、そして街区の中に24時間対応可能な中核ケアセンターの設立が必要です。緊急ボタンを押せば、ケアセンターから介護スタッフが駆けつけます。各戸の水道メーターの信号をケアセンターに集約すれば、安否確認が行なえます。

現在の地域包括支援センターを充実させるのも一方法かと思えます。

特養を一軒建てるためには、建設費だけでも、入所者一人当たり1000万円から1500万円かかります。経済不況、行政財政難において、今後、特養の建設はかなり困難かと思われます。現在、大阪市内でのある特養では、一施設当たりの待機人数が300～400人という状態です。

一軒の特養で平均年間、3名の空きが出たとしても、現在の待機者だけでも全員が入居するのに、100年以上もかかるということになります。

しかし、高価な有料老人ホームに入居できるのは、限られた富裕層だけです。

霞ヶ関官僚や行政には期待出来ません！我々NPOや地域社会自体が、早急に取り組まなければならないと考えます。

まず、一軒でも多くの「住宅のバリアフリー化」が急がれます。

住環境研究部会 H24年度事業計画 (H24/7/1～H25/6/30)			
A：事業活動 (有償無償に関わらず、外部に対しての事業活動)			
No.	事業名	日付 期間	事業目的・内容等
	相手先・依頼主		成果
1	住宅改修	H24. 7～	高齢者・障害者の住環境改善（バリアフリー化）
	未定		高齢者・障害者が安心して安全に在宅生活を継続する。
	未定		

住宅改修については、今後ともニーズへの対応は続ける。

住環境研究部会 H24 年度活動計画 (H24/7/1～H25/6/30)			
B : 部会活動 (会員の研修会や勉強会、他機関との会合等)			
No.	活動名	日付 期間	活動目的・内容等
	参加人数		成果
	場所		
1	学習会	H24. 7～	あおぞら特養構想

住環境部会を構成するメンバーの部会参加は低迷しており、
部会の活動方針等も含めて、検討を要する。

あおぞら特養構想は、近年主流になりつつある地域密着24時間介護の考え方の基本をなすものであり、住環境研究部会は、これを主要なテーマとする。

ただ、行動を伴わない学習では意味がないので、趣旨に沿った活動実践と政策提言を進める。

住環境研究部会 平成 24 年度予算 (H24/7/1～H25/6/30)				
事業・部会 No	事業名	収益	費用	差益
B-1	住宅改修	100,000	95,000	5,000

23年度A-2事業のように、住宅改修施工費を収益費用に参入することは今後しない。
もっぱら、住宅改修にともなう調査・設計・監理業務に限定する。

研修部会（鎌田会員 協議参加：小川・山本）

かねて、ふくてつくロジックモデルに明記され、運営会議等で議論された「研修事業の拡大」については、24年度も研修部会では着手を見送る。

研修部会 平成24年度活動計画 (H24/7/1～H25/6/30)			
B：部会活動（会員の研修会や勉強会、他機関との会合等）			
No	活動名	日付 期間	活動目的・内容等
	参加人数 場所		成果
1	パソコン教室	7/7	パソコンの機能の説明及び操作の習得。
	5名		ワード、エクセルでの文章作成等。
	大阪市立社会福祉センター1階		
2	パソコン教室	9/1	パソコンの機能の説明及び操作の習得。
	5名		ワード、エクセルでの文章作成等。
	大阪市立社会福祉センター1階		
3	パソコン教室	10/6	パソコンの機能の説明及び操作の習得。
	5名		ワード、エクセルでの文章作成等。
	大阪市立社会福祉センター1階		
4	パソコン教室	11/10	パソコンの機能の説明及び操作の習得。
	5名		ワード、エクセルでの文章作成等。
	大阪市立社会福祉センター1階		
5	パソコン教室	12/1	パソコンの機能の説明及び操作の習得。
	5名		ワード、エクセルでの文章作成等。
	大阪市立社会福祉センター1階		
6	パソコン教室	2/2	パソコンの機能の説明及び操作の習得。
	5名		ワード、エクセルでの文章作成等。
	大阪市立社会福祉センター1階		
7	パソコン教室	3/2	パソコンの機能の説明及び操作の習得。
	5名		ワード、エクセルでの文章作成等。
	大阪市立社会福祉センター1階		
8	パソコン教室	4/6	パソコンの機能の説明及び操作の習得。
	5名		ワード、エクセルでの文章作成等。
	大阪市立社会福祉センター1階		
9	パソコン教室	5/11	パソコンの機能の説明及び操作の習得。
	5名		ワード、エクセルでの文章作成等。
	大阪市立社会福祉センター1階		
10	パソコン教室	6/1	パソコンの機能の説明及び操作の習得。
	5名		ワード、エクセルでの文章作成等。
	大阪市立社会福祉センター1階		

研修部会 平成24年度予算計画 (H24/7/1～H25/6/30)				
事業・部会 No	事業名	収益	費用	差益
B-1～10	パソコン教室（10回）	¥25,000	¥20,000	5,000
		(2,500×10)	諸謝礼金 20,000×10	

東大阪部会（清水会員 6/16 部会合議）

東大阪部会 平成 24 年度活動計画（H24/7/1～H25/6/30）			
A：事業活動（有償無償に関わらず、外部に対しての事業活動）			
No	事業名	日付 期間	事業目的・内容等
	相手先・依頼主		成果
	場所		
1	東大阪市高齢者・重度障害者住宅改造費助成制度適正検証事業	H24 年 7/1～ H25 年 6/30	目的：高齢者・障がい者の為の住環境のバリアフリー化を促進し、データ収集分析を踏まえ、施策提言に結びつける。
	東大阪市		質の良い住環境改善と、高齢者・障がい者の在宅生活の継続。
	東大阪市内		
2	東大阪市介護保険住宅改修適正検査事業	H24 年 7/1～ H25 年 6/30	目的：対象者の自立支援や事故防止、住宅改修の質的向上と、不適切な介護保険適用を抑制する。
	東大阪市		介護支援専門員の質的向上、施工業者の不正の抑止と資質の向上を誘導する。
	東大阪市内		
3	尼崎市介護保険住宅改修支援事業	H24 年 7/1～ H25 年 6/30	目的：健全な制度利用と介護支援専門員の資質向上への支援、行政及び地域包括支援センターとの協働体制の確立。
	尼崎市		介護支援専門員の資質の向上を図ることにより、質の良い住環境のバリアフリー化を促進する。
	尼崎市内		
4	出前講座	H24 年度 下半期	目的：住環境改善のための地域福祉力の育成
	大阪府民		地域包括支援センター・介護支援専門員・民生委員・地域活動をしている市民と連携し、市民の共助による住環境改善意識を促進する。
	大阪府下		
5	大阪府下自治体バリアフリー施策実態調査	H24 年 9 月～ 11 月予定	目的：大阪府下自治体における高齢者・障がい者の住宅改造助成制度や介護保険住宅改修の諸手続きを調査し、バリアフリー施策の活性化に生かす。また、本制度申請者の適切、且つ、負担の軽減に寄与する。
	大阪府下自治体		東大阪市改造助成制度及び介護保険住宅改修の迅速な手続き・システムの改善、大阪府下住宅改修事業等が活性化かする。
	大阪府下		
6	東大阪地域連携プロジェクト	H24 年 7/1～ H25 年 6/30	目的：地域におけるネットワークとの協働体制を確立し、質の良い住環境を提案する。
	東大阪市民		本年度は、地域の福祉力と連携し、課題検討のプロセスを共有し共通認識をもつ。
	東大阪市内		

東大阪部会 平成 24 年度活動計画 (H24/7/1～H25/6/30)

B : 部会活動 (会員の研修会や勉強会、他機関との会合等)

No	活動名	日付 期間	活動目的・内容等
	参加人数		成果
場所			
1	定例部会(月1回開催)	H24年7月 ～ 第3土曜	目的：東大阪部会活動における情報の共有と促進 内容：活動の報告・連絡・検討
	検証メンバー		チームで取組、公正・適切、且つ、迅速な検証活動を行うことによっ て、高齢者や障がい者等の在宅生活の継続に寄与する。
	ATC ふくてつく事務局他		

東大阪部会 平成 24 年度予算 (H24/7/1～H25/6/30)

事業・部会 No	事業名	収益	費用	差益
A-1	東大阪市高齢者・重度障害者住宅 改造費助成制度適正検証事業/	3,339,000	2,790,000	549,000
			諸謝金 2,500,000	
			旅費交通費 220,000 消耗品 70,000	
A-2	東大阪市介護保険住宅改修 適正検査事業	4,010,000	3,110,000	900,000
			諸謝金 2,740,000	
			旅費交通費 290,000 消耗品 80,000	
A-3	尼崎市介護保険住宅改修支援事業 (資料参照)	300,000	550,000	△250,000
			諸謝金 440,000	
			旅費交通費 50,000 消耗品 60,000	
A-4	大阪府下自治体バリアフリー施策 実態調査	0	300,000	△300,000
			諸謝金 250,000	
			通信費 30,000 消耗品 20,000	
A-5	出前講座	0	300,000	△300,000
			諸謝金 250,000	
			旅費交通費 30,000 消耗品 20,000	
A-6	東大阪地域連携プロジェクト	0	150,000	△150,000
			諸謝金 100,000	
			旅費交通費 30,000 消耗品費 20,000	
合計		7,649,000	7,100,000	549,000 7.8%
			諸謝金 6,180,000	
			旅費交通費 620,000	
			消耗品 260,000	
			通信費 40,000	

福祉用具部会（古場会員 協議参加：杉浦・荻田）

福祉用具部会 平成24年度活動計画（H24/7/1～H25/6/30）	
A：事業活動（有償無償に関わらず、外部に対しての事業活動）	
該当する計画なし	

福祉用具部会 平成24年度活動計画（H24/7/1～H25/6/30）			
B：部会活動（会員の研修会や勉強会、他機関との会合等）			
No	活動名	日付 期間	活動目的・内容等
	参加人数		成果
	場所		
1	歩行補助器の開発	H24.7 ～H25.6	部会の開催
			1、歩行補助器の試作品を製作する。 2、歩行補助器をよりよい機能に改良する

福祉用具部会 平成24年度予算（H24/7/1～H25/6/30）				
事業・部会 No	事業名	収益	費用	差益
収益費用を伴う事業は該当なし				

2 4 年度基本方針と重点課題

■ 新たなミッションへのシフト

高度経済成長期に於いては、介護や子育ては個人（家庭）が自立して責任をもつことを前提として、ひたすら経済規模の拡大路線が進められた。その間、生活の安全優先理念や介護・子育ての社会化は、置き去りにされ、急速な経済成長を求めた結果、様々な社会病理を生む結果となった。古くは足尾銅山事件、水俣病、近くは原発がそうであろう。

前二者の事件も、発生当時の認識の甘さは、現在の原発問題に酷似していたはずだ。

まさに、過ちに気づくことが遅きに失してきた歴史の繰り返しだ。

その後も、国や自治体に経済的推進力のあるうちは、こうした社会化の遅れた課題に対し、豊富な財力に任せて補おうとした。いわゆるゴールドプラン等々である。しかしながら、そうした施策が、かえって市民の自らが立って担おうとする気概を萎えさせ、他者依存傾向と一部の不心得な事業者の専横を一段と増長して、いくつかの意義ある市民活動の芽生えにも関わらず、大局的には地域福祉力はいよいよ疲弊している。

現下の少子高齢化と経済規模の縮小は、国や自治体による福祉施策の財政的推進力を破綻させ、「施設解体論」を待つまでもなく、施設整備の手法による福祉の増進をかつてなく困難にしている。すなわち都市部においては高止まり地価や公有地利用の抑制による用地取得の困難さと補助金の低減によって、福祉施設の建設は余程に経済力を有する法人でなければ不可能であるし、地方においては、箱物の建設は可能であったとしても、福祉労働力を確保できない現実がある。

その一方で、勤労所得の低迷は、世帯主単独の収入で家庭を支えるという社会構造を過去のものとし、結果として専業主婦の存在を難しくしているのが、介護や子育ての社会化ニーズは、益々増大するばかりである。

また若者は、将来の生活像をイメージすることもできず、その結果、少子化はさらに加速してゆく……。

2000年4月にスタートした介護保険制度も、そうした流れに対応して、介護負担を家庭（の妻や娘）に押し付けてきた限界を打開するための「介護の社会化」であったし、それは同時に地方自治・地方分権の試金石と言われたのであったが、11年を経過してその期待はむなしく、社会保障、社会福祉制度設計のほころびはすでに覆いがたい。

いわゆる「介護難民」の顕現である。地域では、核家族化を通り越して、単身世帯が急増しており、既に「家族」という単位を失った多くの市民は、子育てや介護に困窮している。

認知症高齢者の急増が指摘されているが、現代の地域課題は高齢者福祉だけに限定できるような浅薄なものではない。

今後の基本的な流れとして、障害者施設から地域への移行、そして医療現場における膨大な「社会的入院」の解消課題がある。一例をあげれば、現在33万床を数える精神病床のうち22万床は、入院期間が1年を超えるものであり、それは明らかな社会的入院である。（もはや医療とは言い難い）諸外国の取組を見るまでもなく、近い将来にこうした人たちが、地域で当たり前で暮らせる社会を整えるべきことが緊喫の課題になってくるだろう。

（すでに厚労省は明確な理由のない1年以上の精神病院入院加療は認めない方針を決めた。）はたして“地域”は、このような負託に応じ得るのか？

こむねっと事業部はこうした現実に鑑み、地域課題の解決は、市民自らの責任行動の中にしか見出し得ないという認識に立って、都市の地域福祉力の健全な復興と育成を新たなミッションとする。

すなわち、こむねっと事業部は地域課題を（高齢・障害・児童に亘って）総合的にとらえて、全ての市民が連携して主体的に責任ある自治を実践する「福祉社会」の醸成を目指すべく、「地域共生ケア環境創作事業（以下「共生環境事業」）」に着手する。

■ 従前からの事業の位置づけ

(1. 建物定期検査報告 2. 福祉サービス第三者評価)

共生環境事業は、福祉やまちづくりを「箱物整備」に期待しない手法である。しかしながら、既往の施設を即座に否定(解体)して、福祉課題のすべてを地域にゆだねることは、これも非現実的であり、施設には施設の役割を全うさせる必要がある。そのためには、既往の施設、既往の福祉事業所が、その健全な環境を維持して、質の高い福祉サービスを提供し続けることが欠かせない。それを建築専門職として、また福祉サービス第三者評価調査者として誘導してゆくことは、重要な活動課題である。

また、両事業がこむねっと事業部の活動エンジンに相当することは言うまでもないが、単に財務上の推進力であることにとどまらず、両活動を通じて、ひとのつながりを増幅させてゆくことも大きな目的のひとつである。

従って、こむねっとにおける両事業は、そのうわべの活動目的に矮小化することなく、その本質とするところを追求する活動とする。

■ 活動基本方針

こむねっと事業部ロジックモデルに掲げた中長期計画に沿って、以下を基本方針とする。

運営に関しては、従前どおりコアメンバーによる合議(10、2、6月に開催)を進める。

コアメンバーは、実際の活動に従事するメンバーに限定せず、むしろ活動を離れて部会活動に一過言有するメンバー構成とする。(24年度コアメンバー:和泉 稲住 岡 秋岡 小川 杉浦 清水 池端 畑 中北の10名)

事業活動の参加は、ふくてっく全会員に呼びかけ、事業内容に応じて外部からも適材を登用する。

部会は、主として偶数月に開催し、奇数月に開催する住環境研究部会とのすみわけを図る。ふくてっく例会前の部会等開催は、研修部会等とのバッティングを避けるべく最小限とする。

1. 共生環境事業については、現場活動の実践を主とし、学習会を従とする。

学習のための学習を重ねるのではなく、もっぱら地域における実践に取り組む。実践のなかから、学習テーマを抽出し、鋭意研鑽に励む。

2. 奈良の取組で体制づくりの端緒について、当会の第三者評価システムをさらに発展させる。

本年度は、

- ① 受注した羽曳野のS T社の取組を進めるが、今回は赤字を前提とすることなく、活動参加メンバーにも一定水準の活動報酬を保障する事業として成功させる。

※すでに第三者評価事業は、建物検査事業の規模を上回っており、後者が前者の活動を収益的に支える構図は解消し、第三者評価事業の経済的自立を確立する。

- ② 新たな評価調査者メンバーの増員

ふくてっく会員から1~2名程度、(曾我部・後藤会員)

また、大塚会員(現在、障害分野)が高齢・児童分野を受講予定。

外部人材にも声をかける(候補者:2名)・・・ふくてっく入会も勸奨
外部メンバーには、評価決定委員をお願いしたい。

元、特養「花嵐」施設長 水野博達氏

評価活動に従事することは難しいが、評価決定委員就任は快諾を得た。

- ③ 秋岡会員を当会評価調査メンバーに迎え、継続研修を受講していただく。

継続研修受講により、経過措置名簿から評価調査者名簿に復帰。

- ④ 社会的養護施設評価調査者の養成(中北と大塚会員が受講)。

- ⑤ S T社のほか、社会的養護施設を含む3件以上の受注を獲得する。

3. 事業部活動の基本方針として、

- ① 国や地方行政の社会福祉施策・方針に対しては、批判的視点をもって対峙し、批判のための批判に終わることなく、その問題点をあまねく指摘する。
同時に地域に密着して、利用者とその家族、市民・住民とともに、より豊かな在宅福祉・地域福祉を創造するために、建設的な提案と実践を重ねる。
- ② 価値観や課題解決手法を異とする医療と福祉の融合と連携の“階”となる。
そのほか、自らの固定概念に固執することなく、様々な価値観や解決手法に柔軟になじむことを是とし、絶えず自らの脱皮改新を図る。
- ③ 活動参画メンバーの資質向上に絶えず努め、ロジックモデルを前進させる。
- ④ 活動に際しては利用者尊重を第一義とし、当然のこととして、活動から知り得た情報の一切について、これを他に漏えいしまたは利用することはしない。
この理念（守秘義務）は、活動メンバーの共通認識として徹底する。
- ⑤ 事業活動についてはメンバーの資質と活動参加余力に鑑みてその都度人選し、少数精鋭のⒶ中核メンバー、ⒷアシストメンバーとⒸ研修メンバー、
Ⓓアドバイザーメンバーに区分する。

中核メンバーは、担当する事業の遂行に当たって責任者としてこれを統括する。

事業規模によっては、複数の中核メンバーを置くことがあり、この場合は

中核メンバーの一人を、または別途に指名して、統括責任者を置く。

アシストメンバーは、中核メンバーを補佐し、協働して同等の責務を負う。

前二者の選任は、事業計画の都度、活動内容、事業予算等を勘案して決定する。

第三者評価活動実績として府に報告するメンバーはⒶおよびⒷを原則とする。

研修メンバーは、活動参加を通じて、当該事業に関する自己研鑽にはげみ、

将来的に同事業活動を支えるメンバーたらしとする者とし、ふくてっく正会員に限る。

ふくてっく正会員が研修メンバーとしての活動参加を希望する場合は、原則として拒まず受け入れるが、下記に該当する場合は、参加を遠慮いただくことがある。

- 1) 部会の共通理念になじまず、または意思疎通の潤滑を欠くなど、メンバーとして活動チームの円滑な事業遂行に支障をきたす場合
- 2) 発注関係者が不信・不安を抱き、あるいは迷惑を与えて、当会への信頼性を損なう恐れがあると危惧される場合
- 3) 専ら自己の学習もしくは興味本位の参加に過ぎず、将来的に事業を支えるメンバーたらしとする意思と資質が伴わないと思われる場合
- 4) その他、当部会の活動理念を共有できないなど、協働参加することに不都合があると判断される場合

アドバイザーメンバーは、事業の都度大局的な立場から意見をいただく立場として、必要に応じてふくてっく正会員または外部から招聘する。

- ⑥ 活動費の配分は、24年度は中核メンバーにつき8,000円/日（交通費込）を標準とし、アシストメンバーについては、業務計画に即して適宜軽減する。
また、研修参加メンバーには交通費その他の実費を支弁する。
アドバイザーメンバーについては、中核メンバーの報酬規程を超えない範囲で活動参画内容に応じて、都度決定する。
- ⑦ 事業活動に該当しない学習会その他部会活動は原則として無償とする。
ただし、部会が承認する研修における参加費について、その一部を補助することがある。
- ⑧ こむねつと事業部の趣旨に沿って、新たな課題展開を模索する。具体的には、
 - 1) 障害者による障害者のための研修事業
ブラインドパソコン教室などの構想実現を期する。
 - 2) 障害者による障害者のための住環境改善事業
障害者就労支援事業とのコラボレーションによって実現を図る。

こむねつと事業部 H24 年度事業計画 (H24/7/1～H25/6/30)

A：事業活動 (有償無償に関わらず、外部に対しての事業活動)

No.	事業名	日付 期間	事業目的・内容等
	相手先・依頼主		成果
	場所		
1	福祉サービス第三者評価	7.1 ～ 1.30	障害者福祉事業所(スバル・トータルプランニング)の評価
	スバル・トータルプランニング(株)		ST社各事業所の第三者評価に関して、事業所内部研修から関与。
	羽曳野市・守口市		評価機関としてのさらなる組織強化(担当メンバーの機能強化)を目指す。
2	福祉サービス第三者評価	未定	23年度に実施した第三者評価の継続事業
	奈良県手をつなぐ育成会		23年度の評価結果から、重点課題に絞り込んで、その改善の取組を検証する。
	奈良県高市郡高取町		育成会の事業所としての組織力強化にむけて支援を続け、組織改善とサービスの質の向上を軌道に乗せる。
3	福祉サービス第三者評価	未定	福祉サービス第三者評価
	未定		新規の受注を目指す(特に社会的養護関係施設)
	未定		
4	福祉サービス第三者評価	周年	目的：福祉サービス第三者評価事業の振興
	大阪府同事業推進機構 及び 評価機関連絡会		推進委員会(年3回)への参加 同、基準等部会への参加 評価機関連絡会(年3回)の主催 評価機関連絡会幹事機関会議(随時)の主催 評価機関連絡会協働事業 7月 福祉の就職総合フェア 11月 マッセ大阪との協働シンポジウム 社会的養護施設関係評価調査者養成研修の受講 (7月：中北・大塚会員)
	大阪府		社会的養護施設第三者評価機関認証(全社協) 評価調査者養成研修の受講(8～10月：曾我部・春岡・大塚会員) 評価調査者継続研修の受講(10月：秋岡会員) 大阪府福祉サービス第三者評価事業の社会的認知を向上し 連絡会参加の評価機関の事業全般を振興するとともに こむねつと事業部の体質を強化する。
5	特殊建築物定期検査報告	8月	特別養護老人ホーム至善荘・福井寮の平成24年度定期検査報告
	(社福)至善会・福井寮		建築設備(非常照明・換気)に関する保全状況の検査・報告。
	大阪市城東区・淀川区		部会活動を支える収益を得る。
6	特殊建築物定期検査報告	未定	建物定期検査報告
	未定		新規の事業所からの受注を目指す
	未定		
7	青葉園新拠点開発	未定	青葉園のサテライト拠点施設の開発調査
	(社福)西宮市社協		昨年度、不調に終わった企画を実現する。
	西宮市		
8	共生環境事業	周年	淀川区をモデルケースとして地域共生ケア環境を創る
	医療・福祉・地域連携		医療・福祉・市民の連携を図り、その拠点づくりを目指す。
	大阪市淀川区 福島区・阿倍野区		上記活動において関係諸団体・個人のつなぎ役としての役割を担い、そうした機能を本会の新たなミッションに位置付けて、やがては他の地域への波及を志向する。 ななとこ庵、あべのAICHANにおいても同様に進める。
9	その他発展事業	未定	共生環境事業理念を具体化する起業

こむねつと事業部 H24 年度活動計画 (H24/7/1～H25/6/30)

B：部会活動 (会員の研修会や勉強会、他機関との会合等)

No.	活動名	日付 期間	活動目的・内容等
	参加人数		成果
場所			
1	住研部会との合同会議	7月7日 11:00～	両部会の活動内容・部会開催日程の整理・調整
	両部会関係会員		両部会のミッションを再確認。部会開催日程等の調整を行い、
	市立社会福祉センター		24年度事業計画を見直す。
2	淀川 真友会	7月12日 19:00～	地域共生ケア環境創造事業 ①淀川区地域懇談会
		8月20日 13:00～	学習懇談会「もの忘れと介護」
	淀川区 福井医院		医療と介護の連携の在り方と可能性について関係団体の協議を 演出し、地域共生の仕組みづくりをスタートラインに乗せる。

※7月21日(土) 15:00～ ふくてっく理事会

3	部会	8月4日 午前 および 8月後半	福祉サービス第三者評価
	(主として評価調査者)		・すばるの内部研修を終えて、評価活動メンバー体制の確認 役割分担や日程、その他方針の検討。
	ふくてっく例会場を予定		・社会的養護事業所関係の第三者評価調査者養成研修を終えて 課題の全体化と、今後の受審獲得戦略を協議。基本方針を協議。 具体的な事業戦略(P R先の選考、P R手法の策定)を決定する。

※9月1日(土) ふくてっく例会前：運営会議を予定

※9月15日(土) 午後 住研部会

4	部会	10月6日 午前	福祉サービス第三者評価
	ふくてっく例会場を予定		S T社評価活動の中間総括 アンケート調査・内部評価の分析・訪問調査計画の確定。
5	コア会議	10月 (日程未定)	24年度四半期の経過振り返り
	コアメンバー		年度計画の妥当性を確認し、必要に応じて計画の見直しを行って
	未定		24年の単年度事業計画を確定する。
6	部会	11月3日 午前	地域共生ケア環境創造事業 ②淀川区の実践から課題抽出
	未定		7月の学習懇談会以降、4半期の活動を総括し、成果と課題を整理。 今後の活動方針を見極める。 今後の研究課題や、地域の資源(連携団体・個人)のリスト化。

※11月17日(土) 午後 住研部会

※12月1日(土) ふくてっく例会前：運営会議を予定

7	部会	12月15日	福祉サービス第三者評価
	(主として評価調査者)	・	S T社評価決定会議(ふくてっく評価調査者による合同会議)
	ATCを予定	12月22日	
8	部会	1月 (日程未定)	福祉サービス第三者評価
	(主として評価調査者)		S T社評価結果について、水野博達氏を招き最終検討
	未定		

※1月19日(土) 午後 住研部会

9	部会	2月2日 午前	地域共生ケア環境創造事業 ③「障害者の地域生活」
	ふくてっく例会場を予定		
10	コア会議	2月 (日程未定)	24年度上半期の経過振り返り
	コアメンバー		中長期計画との整合性を確認。 予算計画の補正を行うとともに
	未定		次年度以降に向けた活動構想について協議し見通しを立てる。

※3月2日(土) ふくてっく例会前：運営会議を予定

※3月16日(土) 午後 住研部会

11	部会	4月6日 午前	地域共生ケア環境創造事業 ④「地域における子育て」
	ふくてっく例会場を予定		

1 2	部会	4月20日 午後	地域共生ケア環境創造事業 ⑤
	ATCを予定		淀川区での取組を振り返り、今後の活動発展に向けての検討 具体の事業化に向けて一定の見通しを得る。

※5月18日(土)午後 住研部会

※6月1日(土)ふくてっく例会前:運営会議を予定

1 3	コア会議	6月 (日程未定)	24年度活動の総括および25年度計画の検討
	コアメンバー		運営会議・理事会への上程文書(報告書・計画書)をまとめる。
	未定		

※上記の計画は、事業展開に即して臨機に追加・修正することがあります。

こむねっと事業部会 平成24年度予算 (H24/7/1~H25/6/30)

事業・部会 No	事業名	収益	費用	差益
A-1	ST社 第三者評価	472,500	446,500	26,000
A-2	奈良県手をつなぐ育成会 第三者評価(前年継続事業)	262,500	230,000	32,500
A-3	その他の第三者評価(少なくとも、ほか1件)	315,000	250,000	65,000
A-4	福祉サービス第三者評価にかかる委員会等活動 (印刷その他有料経費)	0	10,000	△10,000
	評価調査者養成研修(社会的養護) 受講費の半額補助 (中北・大塚)	0	30,000	△30,000
	評価調査者養成研修 受講費の半額補助 (曾我部/3分野) + (後藤/障・児) + (大塚/高・児)	0	60,000	△60,000
	同上 (外部人材 1名程度)	0	22,500	△22,500
	評価調査者継続研修 受講費の半額補助(秋岡)	0	1,500	△1,500
	評価機関連絡会協働事業経費	0	10,000	△10,000

(以上、A-1~A-4 第三者評価関係の収支小計: △10,500)

A-5	至善荘・福井寮 建物検査(防災センター手数料立替を除く)	168,000	68,000	100,000
A-6	その他の建物検査	未定	未定	未定
A-7	青葉園新拠点開発	未定	未定	未定
A-8	地域共生ケア環境創造事業(淀川区)	0	10,000	△10,000
A-9	その他の事業	未定	未定	未定
その他	書籍購入・研修参加費ほか	/	10,000	△10,000
B	部会・コア会議等開催にかかる経費(会場費その他)	/	20,000	△20,000
部会経費	※余剰金の範囲で、事業収入の3パーセント(千円以下切り捨て)	/	36,000	△36,000
合計		1,218,000	1,204,500	13,500

1.1%

未確定事業を推進して、以下を年度目標とする。

	収入	支出	余剰金
合計	1,600,000	1,500,000	100,000

6.3%

活動予算書
平成24年 7月1日から平成25年 6月30日まで

(単位:円)

科目	23年度決算		24年度予算		備考
I 経常収益					
1. 受取会費					
正会員受取会費	390,000		390,000		会員総数維持と見込む
通信会員受取会費	2,500		2,500		同上
学生会員受取会費	3,000		3,000		同上
例会参加受取会費		395,500	5,000	400,500	例会参加10名見込む
2. 受取寄付金	50,000	50,000	0	0	
3. 事業収益					
住環境研究	1,458,680		100,000		施工費の収支は算入しない
研修	12,000		25,000		
福祉用具	0		0		
こむねっと	876,660		1,600,000		
東大阪	7,005,600	9,352,940	7,649,000	9,374,000	
4. その他収益					
本部事業収益	676,272		43,000		23年度木工部会を本部事業に編入
雑収入	89,164	765,436	30,000	73,000	
経常収益計		10,563,876		9,847,500	
II 経常費用					
1. 事業費					
(1) 人件費					
給料手当	108,700		0		
人件費計		108,700		0	
(2) その他経費					
材料費	310,087		46,300		
業務委託費	1,340,295		95,000		
諸謝金	6,180,619		7,440,188		
地代家賃	203,460		33,910		木工倉庫賃料2か月分計上
印刷製本費	248,464		115,000		
通信運搬費	30,045		51,000		
消耗品費	181,417		280,000		
旅費交通費	594,557		725,000		
車両費	800				
会議費	9,900		15,000		
租税公課	11,200		1,200		
研修費	27,500		134,000		
諸会費	0		25,000		NPOセンター、有ボ連、宅老連
支払手数料	22,969		3,800		
寄付金	10,000		0		
雑費	89,182		65,000		
その他経費計		9,260,495		9,030,398	
事業費計		9,369,195		9,030,398	
2. 管理費					
(1) 人件費					
給料手当	129,600		129,600		
人件費計		129,600		129,600	
(2) その他経費					
諸謝金	63,333		0		学習会講師謝礼は事業費勘定へ移動
地代家賃	400,812		400,800		
印刷製本費	28,507		28,500		
通信運搬費	58,459		58,500		
消耗品費	14,846		15,000		
旅費交通費	33,880		34,000		
会議費	56,100		56,100		
保険料	39,200		39,200		
租税公課	70,237		70,000		
諸会費	10,000		0		諸会費は事業費勘定へ移動
支払手数料	31,418		32,000		
減価償却費	4,274		4,300		
交際費	10,000		10,000		
雑費	32,225		32,200		
その他経費計		853,291		780,600	
管理費計		982,891		910,200	
経常費用計		10,352,086		9,940,598	
当期経常増減額		211,790		-93,098	
当期正味財産増減額		211,790		-93,098	
前期繰越正味財産額		4,697,208		4,908,998	
次期繰越正味財産額		4,908,998		4,815,900	

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正NPO法人会計基準協議会)によっています。

- (1) 固定資産の減価償却の方法
有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却をしています。
- (2) 消費税等の会計処理
消費税は税込経理により処理しています。

2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下のとおりです。

※23年度は決算額 24年度は予算額を示す。

(単位:円)

	本部		住環境研究		木工		研修		こむねっと		東大阪		事業部門計		管理費		合計	
	23年度	24年度	23年度	24年度	23年度	24年度	23年度	24年度	23年度	24年度	23年度	24年度	23年度	24年度	23年度	24年度	23年度	24年度
I 経常収益																		
1. 受取会費															395,500	400,500	395,500	400,500
2. 受取寄付金															50,000	0	50,000	0
3. 事業収益	55,500	43,000	1,458,680	100,000	676,272		12,000	25,000	876,660	1,600,000	7,005,600	7,649,000	10,084,712	9,417,000			10,084,712	9,417,000
4. その他収益													0	0	33,664	30,000	33,664	30,000
経常収益計	55,500	43,000	1,458,680	100,000	676,272	0	12,000	25,000	876,660	1,600,000	7,005,600	7,649,000	10,084,712	9,417,000	479,164	430,500	10,563,876	9,847,500
II 経常費用																		
1. 人件費																		
給料手当					108,700								108,700	0	129,600	129,600	238,300	129,600
人件費計	0	0	0	0	108,700	0	0	0	0	0	0	0	108,700	0	129,600	129,600	238,300	129,600
2. その他経費																		
材料費	25,000	46,300			285,087								310,087	46,300			310,087	46,300
業務委託費			1,340,295	95,000									1,340,295	95,000			1,340,295	95,000
諸謝金		160,188	39,598		271,021		10,000	20,000	595,000	1,080,000	5,265,000	6,180,000	6,180,619	7,440,188	63,333	0	6,243,952	7,440,188
地代家賃		33,910			203,460								203,460	33,910	400,812	400,800	604,272	434,710
印刷製本費			80						57,510	115,000	190,874		248,464	115,000	28,507	28,500	276,971	143,500
通信運搬費	700		11,815						11,690	11,000	5,840	40,000	30,045	51,000	58,459	58,500	88,504	109,500
消耗品費		20,000							181,417			260,000	181,417	280,000	14,846	15,000	196,263	295,000
旅費交通費		30,000	1,000						68,167	75,000	525,390	620,000	594,557	725,000	33,880	34,000	628,437	759,000
車両費											800		800	0			800	0
会議費									8,700	15,000	1,200		9,900	15,000	56,100	56,100	66,000	71,100
保険料											1,200		0	0	39,200	39,200	39,200	39,200
租税公課									1,200	1,200	10,000		11,200	1,200	70,237	70,000	81,437	71,200
研修費									27,500	134,000			27,500	134,000			27,500	134,000
諸会費		25,000											0	25,000	10,000	0	10,000	25,000
支払手数料	240		1,942		1,312				3,305	3,800	16,170		22,969	3,800	31,418	32,000	54,387	35,800
減価償却費													0	0	4,274	4,300	4,274	4,300
寄付金	10,000												10,000	0			10,000	0
交際費													0	0	10,000	10,000	10,000	10,000
雑費	30,052								55,530	65,000	3,600		89,182	65,000	32,225	32,200	121,407	97,200
その他経費計	65,992	315,398	1,394,730	95,000	760,880	0	10,000	20,000	828,602	1,500,000	6,200,291	7,100,000	9,260,495	9,030,398	853,291	780,600	10,113,786	9,810,998
経常費用計	65,992	315,398	1,394,730	95,000	869,580	0	10,000	20,000	828,602	1,500,000	6,200,291	7,100,000	9,369,195	9,030,398	982,891	910,200	10,352,086	9,940,598
当期経常増減額	-10,492	-272,398	63,950	5,000	-193,308	0	2,000	5,000	48,058	100,000	805,309	549,000	715,517	386,602	-503,727	-479,700	211,790	-93,098

※木工活動は24年度から本部扱い
7・8月の倉庫賃料を含む

※諸謝金・諸会費は
「管理費部門」から「本部」へ移しました。